民間検定試験の大学入試公的活用

民間試験の公的活用が進んでいる経緯と現状

2024年以後のCBTの導入や今後の方針

上智大学
言語教育研究センター長
吉田研作

文部科学省
大臣官房文部科学戦略官
浅田和伸

コーディネーター

全国検定振興機構理事長
吉田博彦

教育の窓
kyoiku no mado

英語民間試験導入 なお不安

シンポジウムで検証

2020年度に始まる大学入学共通テストに導入される予定の英語の民間資格・検定試験。20年4月から受験できるが、開始まで1年2カ月に迫った今も、複数の試験を比較した評価方法や、地域・経済的理由による格差によって公平性が保たれるかなど課題は山積している。東京大学高大接続研究開発センターは10日、大学入試における英語試験のあり方を考えるシンポジウムを開き、センター試験の英語がどのような位置づけかを紹介するとともに、民間試験導入の課題を検証した。【金秀蓮、写真も】

●学力の判断指標

シンポジウムには、全国の大学や高校の関係者ら約400人が来場。大学入試センターで試験・研究統括官を務めた大塚雄作名誉教授らが、英語が学力の指標になっている現状を紹介した。

センター試験では、理科や地歴公民の各科目の平均点に一定の差が生じた場合、得点調整を検討する。大塚名誉教授は、得点調整を検討する際、平均点の差が学力差によるものか、問題の難易度の差によるものかを判断する指標として、各科目を選択した受験生の英語の平均点を見ると説明した。

24年度の共通テストから英語は民間試験へ全面移行する方向で検討が進められていることを念頭に「共通テスト全体のあり方を踏まえ、英語のあり方を改めて検討する必要があるのではないか」と指摘した。

●能力差測れるか

私立の山口県鴻城高校の松井孝志教諭が、現職の英語教師の立場で講演した。

民間試験は英検やTOEFLなど8種類が対象で、国際的指標「CEFR（セファール）」の段階評価が出願資格や加点方式で活用されることを受け、異なる試験で同じ能力の差を測れるかは疑問とした。松井教諭は「センター試験の問題公開されているのや評価ができるが試験は（問題が公ない）ブラックボのものもある。丸いいだろうか」と けた。

●追い風参考

一方、東京大と 大は、高校がCE 下から2番目のA と認めた成績証明 出願を可能とした。

この点について、 県と協力し、高校 語運用能力の評価 研究している静岡 学部の亘理陽一准 は、県内の高校が ベルを想定してそ に作った「パフォ ステスト」を分析

大学入学共通テストの英語に導入される民間試験の課題や、センター試験の英語について振り返るパネリストたち＝東京大本郷キャンパスで10日

高校現場が抱いている心配や課題

- 機器のトラブルによって受験生に不利益が生じないか
- 受験料が高額で経済弱者には負担が大きい
- 問題の漏えい
- 地方では受験できる試験が限られる
- 学校行事との日程調整が不安
- 大学が求めている英語能力と試験が合致するかどうか

（全国高等学校長協会の調査結果より抜粋）

高校側の懸念

シンポジウムでは、東京都立三田高校の校長で全国高等学校長協会（全高長）の笹のぶえ会長が、民間試験を共通テストで使う際の課題について改めて指摘した。笹会長は「高校側が懸念している学習指導要領との整合性や家庭の経済力、地域格差による影響などの課題は、この1年間でほとんど解決していない」と話した。

「機器の性能やトラブルによって受験生に不利益が生じないか」など、全高長が実施した調査に寄せられた高校現場

論点①

民間試験の公的活用方針決定の経緯

文部科学省が民間を利するために採用を画策した？

論点②

複数の試験を比較するのは公正性に反する

異なるテストの結果を使った合否判定の信頼性？

異なるテスト結果を使っている入試

現在の入試でも、例えば理科では「物理・化学・生物・地学」などの異なったテスト得点を同一試験の英数国と合計して合否判定している。

センター試験では20点の得点差が出た場合は調整するが、他の大学では不明。

高校生たちは「この科目の方が点が取りやすい」という考えの下でテストを選んでおり、指導現場でそれは黙認されており、広く知られている受験指導である。

論点③

民間検定試験と学習指導要領の関係

民間の検定試験の中には学習指導要領を基にして作られていないテストがある！

■入試問題作成に際しての大学関係者の話

学習指導要領の内容を把握・理解している教員はほとんどおらず、逆にそのようなことをする教員は教育・研究が十分に行えないからだと低く見られる傾向がある。

問題文のチェック等に膨大な時間がかかりながら、手当は多くない反面、万が一、ミスが発生した場合の責任は重大であり、対応者確保に苦慮しており、加えて、入試の多様化により、課題増に拍車がかかっている。

結局、教科書等を抜き書きする（多くの大学）か、学習指導要領とは無関係の独自問題を出題（東大等）に二分化している。

論点④

民間検定試験は信頼できるのか？

民間の検定試験の中には、会場運営などでいい加減な試験運営をしているところがある！

〇民間試験実施機関の多くは第三者評価の必要性を認めている（平成29年度文部科学省「検定試験の第三者評価に関する調査研究」報告書）。

〇評価機関側としては国民の理解・信頼を得られるだけの評価を実施するには相応の費用を必要とするが、各検定試験団体側はそれだけの費用をかけるだけの効果が不明で支出に二の足を踏んでいる。

〇結果、現時点での評価は機関側の了解が得られる費用の範囲・内容で行わざるを得ず、必ずしも十分なものにはなり得ない。大学が積極的に活用を進めることは、各検定試験団体側に第三者評価の実施を促すことにもなり、このジレンマを解消して好循環が回るようになる。

法令（大学設置基準）上、「文部科学大臣が別に定める学修を、当該大学における授業科目の履修とみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる（第29条第1項）」としており、これに基づき多くの大学が検定試験合格による単位認定を実施。

多くの大学などが単位を認定している検定に対して、公正性・公平性を問題視すること自体矛盾しており、認めない理由も不明。

論点⑤

2024年から予定されているCBTはどうなる

CBT準備状況は？英語のセンター試験をなくし民間検定試験の活用とCBTの導入は関係があるのか？